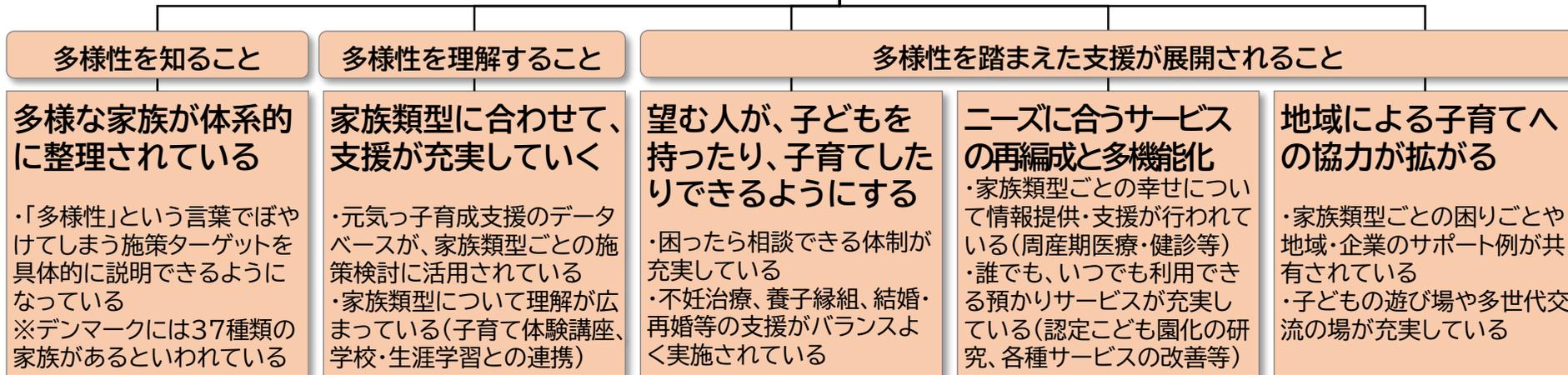


「10年後のありたい姿」は

家族の多様性やそれぞれの幸せについての理解のもと、家庭環境によらず子どもと家族が応援され、安心して支援やサービスが得られること

です

この「ありたい姿」の実現には、



の実現が必要

【ワークショップの概要】

・少子化、親の孤立化等の課題が叫ばれて久しい。若い世代は子どもを持つことを、意識して“選択する”という状況におかれている。

・近年、共働き家族が増え、「父親が働いて、母親が家にいて、子どもがいる」という従来の“一般的な家族”の割合は減少している(「3歳児神話」は既に過去のものとなっている)。少子化がますます深刻化する背景には、“一般的な家族”像に押し込められた、または、外れてしまったことによる、生きづらさ・暗中模索感が影響しているのではないかと。

・家族が変化すれば、支援のあり方も変化するはずである。しかし、家族の変化の実態は、十分に把握されていないのが実情である。そのため、塩尻市の子育て家族の実態を把握し、それを元に支援を再編成していくことが必要なのではないかと。

・また、地域や企業等も子育て家族の実態を把握し、地域全体として子育てに協力していくことで、真に「住みやすく、育てやすく、働きやすい」まちが創られるのではないかと。

分野① 子ども・子育て

私たちの目的は、結婚・出産・子育ての将来に希望と期待が抱けることです

「10年後の子ども・子育て」は

多様な価値観を認め、ひとりひとりが、望む家族・子育てを実現できることです

この「ありたい姿」の実現には

